

# 経営レポート 2016

音更町上下水道事業

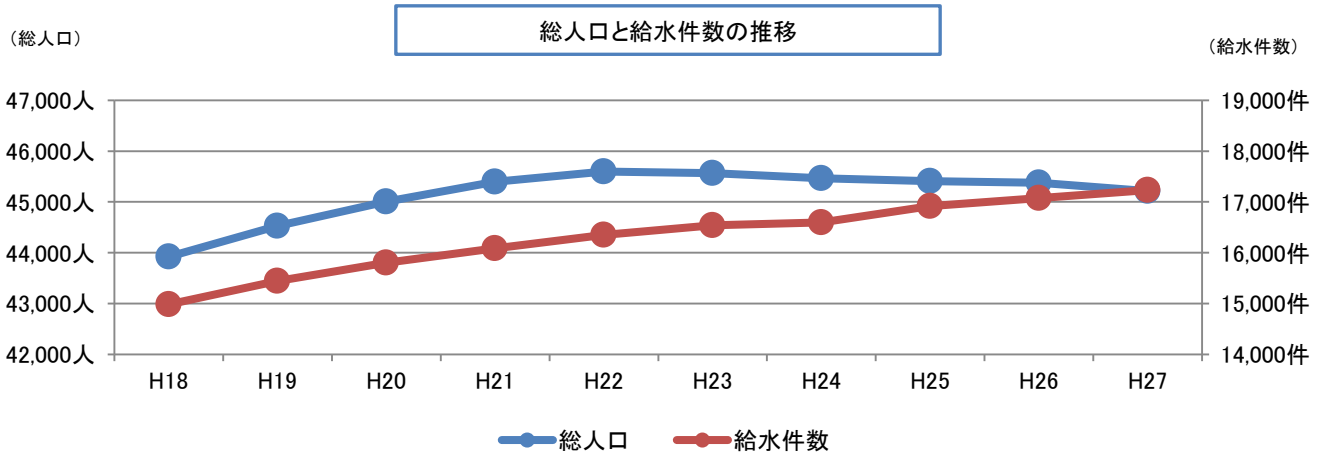
○水道事業  
p1-p5

○下水道事業  
P6-p10

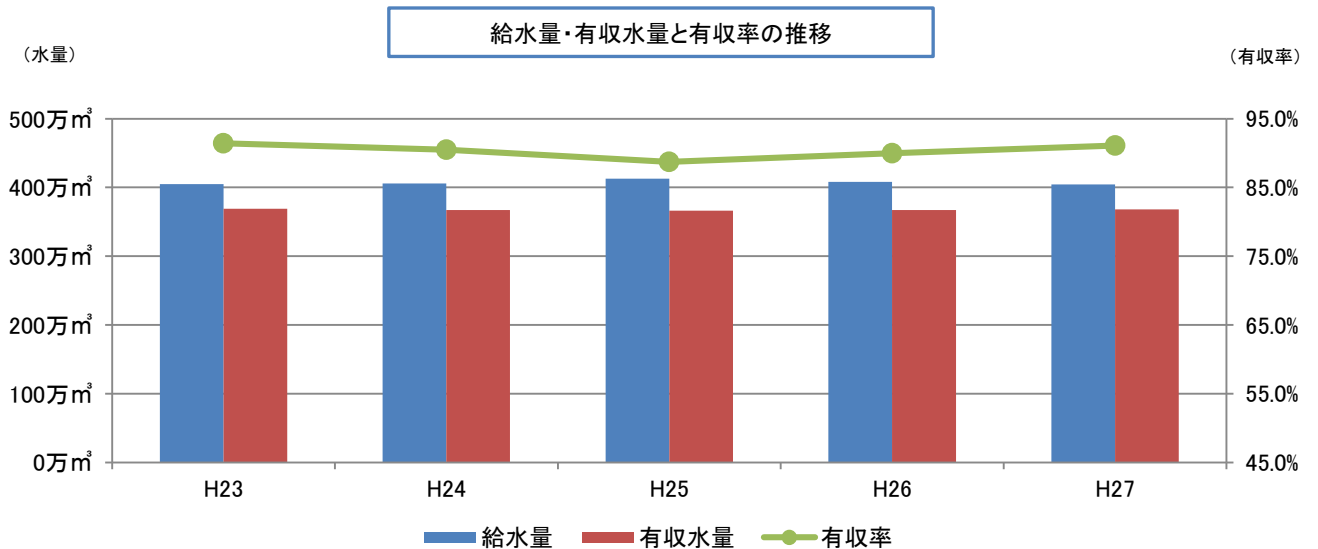
平成28年9月6日

# 1 業務の概要

平成27年度末の給水件数は1万7,232件で、対前年度156件の増となりました。  
平成27年度の年間総給水量は約404万 $\text{m}^3$ で、有収水量は368万 $\text{m}^3$ でした。  
給水の効率性を示す有収率は91.1%で、対前年度1.1ポイントの増となりました。



- 町の総人口は、平成23年度以降減少傾向にありますが、拡張事業の推進により給水件数は増加しています。



- 給水量とは、浄水場から送り出された水量のことです。
- 有収水量とは、料金算定の対象となった水量のことです。
- 給水量は前年度から約3.8万 $\text{m}^3$ 減少していますが、有収水量が増加したことにより、有収率は1.1ポイント改善しています。

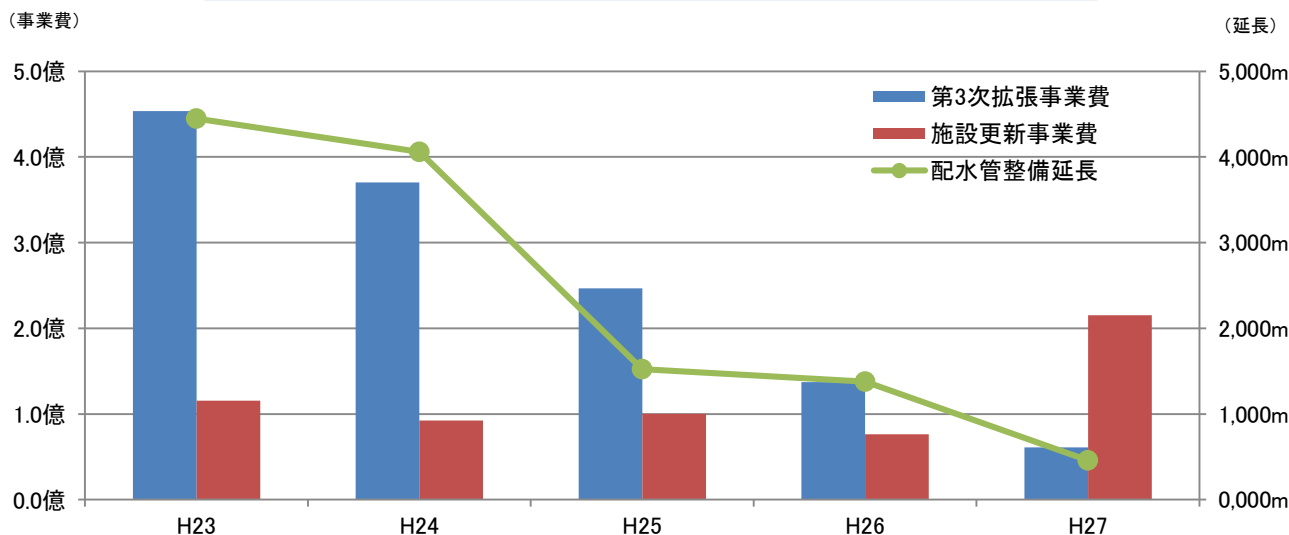
## 2 主要な建設事業

## 水道事業

平成27年度の第3次拡張事業費は6,100万円で、対前年度7,600万円の減となりました。

平成27年度の施設更新事業費は2億1,500万円で、対前年度1億3,900万円の増となりました。

第3次拡張整備事業費、施設更新事業費及び配水管整備延長の推移



### 第3次拡張事業

第3次拡張事業は、市街地開発や宅地開発に伴う水需要の増加に対応するため、平成16年度に着手した給水区域の拡大事業です。平成30年度を最終年度として整備を進めています。

### 施設更新事業

施設更新事業では、主に老朽化した既設水道管の更新工事を行っています。

水道管の法定耐用年数は40年ですが、町が毎年実施している宅内道路の再整備箇所、布設から30年以上経過した水道管が埋設されている場合には、道路の工事に併せて更新を行うことにより、経費を抑制できるため、道路整備の担当課と連携して、更新工事を実施しています。

### その他の事業

住宅の新築などにより、新たに給水を開始する場合の新規設置の量水器(水道メーター)購入や、計量法により、量水器の有効期限が8年と定められていることから、期限を迎える前に対象となる量水器の取替工事を行っています。

# 3 決算の状況

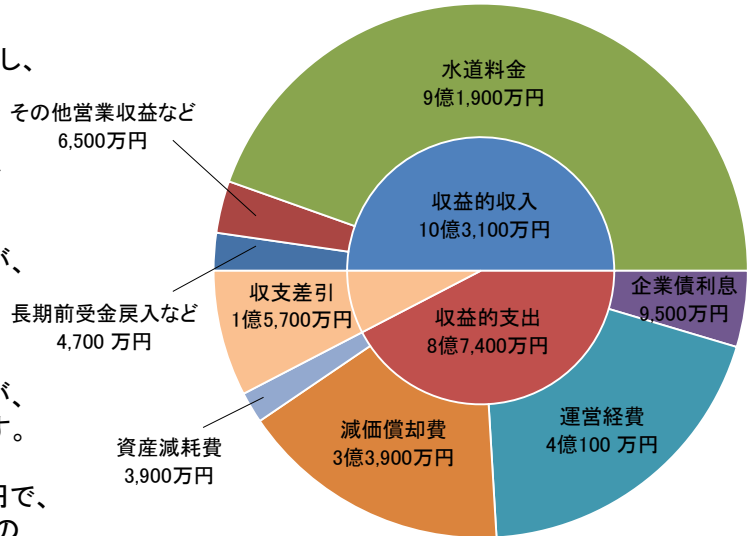
## 水道事業

平成27年度の給水収益は9億1,900万円で、対前年度500万円の増となりました。  
平成27年度の純利益は1億3,100万円で、対前年度700万円の減となりました。

### 収益的収支

- 事業運営の結果、収入額 10億3,100万円に対し、支出額は 8億7,400万円となりました。
- 給水収益(水道料金)は、9億1,900万円となり、収入の9割を占めています。
- 収入は対前年度 1,300万円の増となりましたが、その主な理由は給水収益(水道料金)の増によるものです。
- 支出は対前年度 1,200万円の増となりましたが、その主な理由は資産減耗費の増によるものです。
- この結果、収益的収支の差引は 1億5,700万円で、消費税調整後の純利益は対前年度700万円減の1億3,100万円となりました。

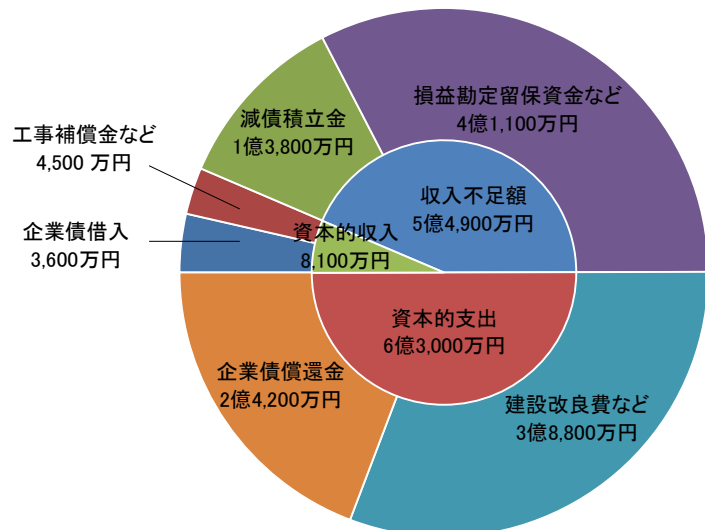
### 収益的収支の内訳



### 資本的収支

- 建設改良費は、施設更新事業費などの増により、対前年度8,300万円の増となりました。
- 企業債償還金は、平成25年度借入分の償還開始などにより、対前年度1,300万円の増となりました。
- 資本的収支における収入不足額5億4,900万円については、減債積立金や損益勘定留保資金など、収益的収支から発生した財源で補っています。

### 資本的収支の内訳

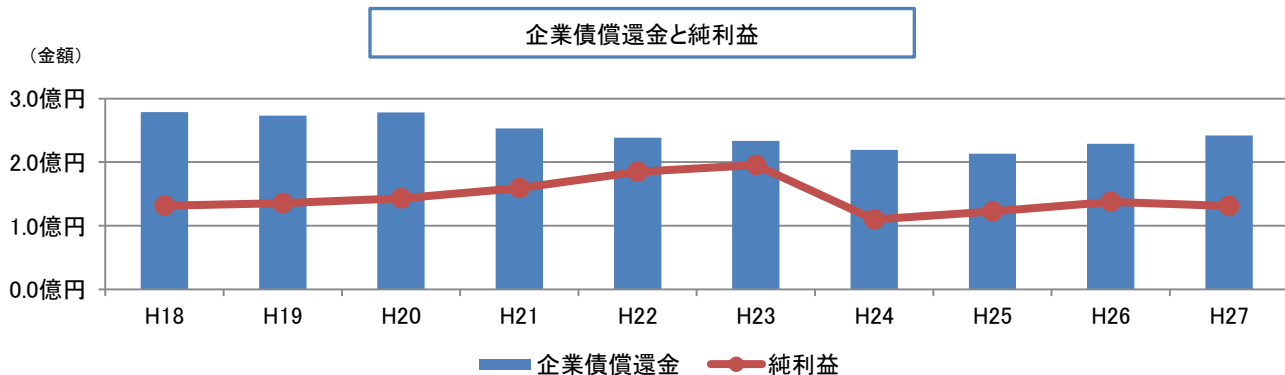


## 4 損益の状況

水道事業

平成27年度の純利益は1億3,100万円で、対前年度700万円の減となりました。

純利益は全て「減債積立金」に積み立て、企業債の償還財源とします。



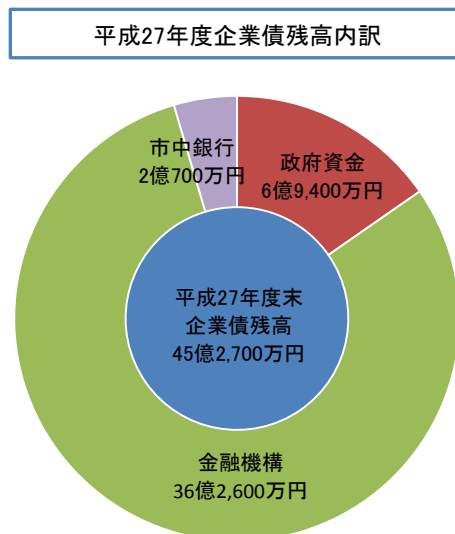
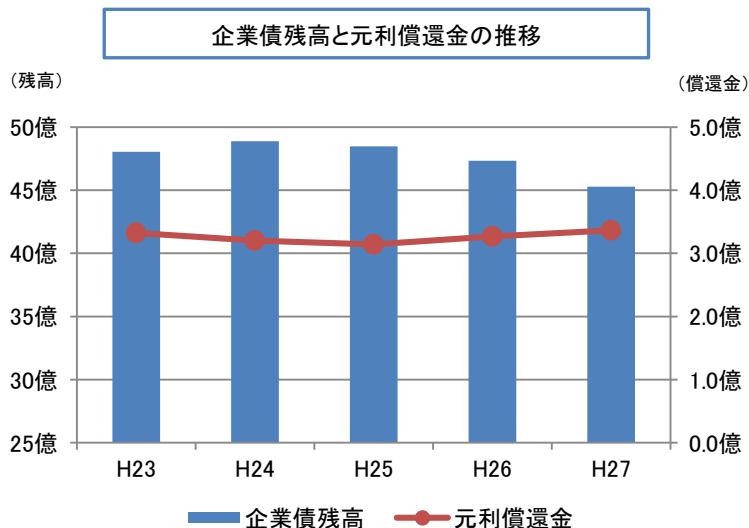
直近の10年間は毎年度1億～2億円の純利益を計上していますが、水道事業では資本的収支における収入不足を補うため、全て翌年度の企業債の償還に充てています。

## 5 企業債残高と元利償還金の推移

水道事業

平成27年度の企業債残高は45億2,700万円で、対前年度2億500万円の減となりました。

平成27年度の元利償還金は、3億3,600万円で、対前年度900万円の増となりました。



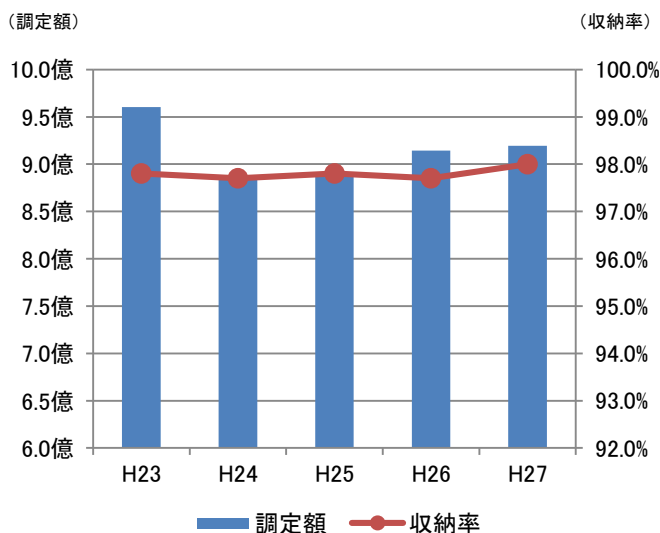
企業債残高は、平成24年度以降減少傾向にあります。

第3次拡張事業終了後は、施設の更新事業が中心となりますが、内部留保資金などを活用することで借入を抑制し、経営上大きなウェイトを占める元利償還金を徐々に減らしていこうと考えています。

# 6 料金収納状況

平成27年度の水道料金調定額は9億1,900万円で、対前年度500万円の増となりました。  
 平成27年度の収納率は98.0%で、対前年度0.3ポイントの増となりました。

料金の調定額と収納率の推移



水道料金の平成27年度調定額は9億1,900万円で、収納額は9億200万円となりました。

給水人口の増加により、調定額は対前年度500万円の増となりました。

平成27年度現年度調定分及び過年度調定分の合計の収納率は98.0%で、現年度分のみは98.1%となっています。

※ 調定額とは、料金の請求額のことをいいます。

## 滞納への対応

### 滞納者への対応の状況

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
徴収員の訪問	12,152回	9,265回	9,232回
停水予告送付	860件	679件	724件
停水通告送付	528件	361件	401件
停水実施	86件	68件	60件

### 徴収員による徴収状況

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
金額	7,953,528円	6,791,615円	6,110,178円

平成25年度に比べ予告・通告件数及び徴収金額が減少していますが、これは滞納者との折衝にあたり、職員が自主納付を促していることによるものと考えられます。

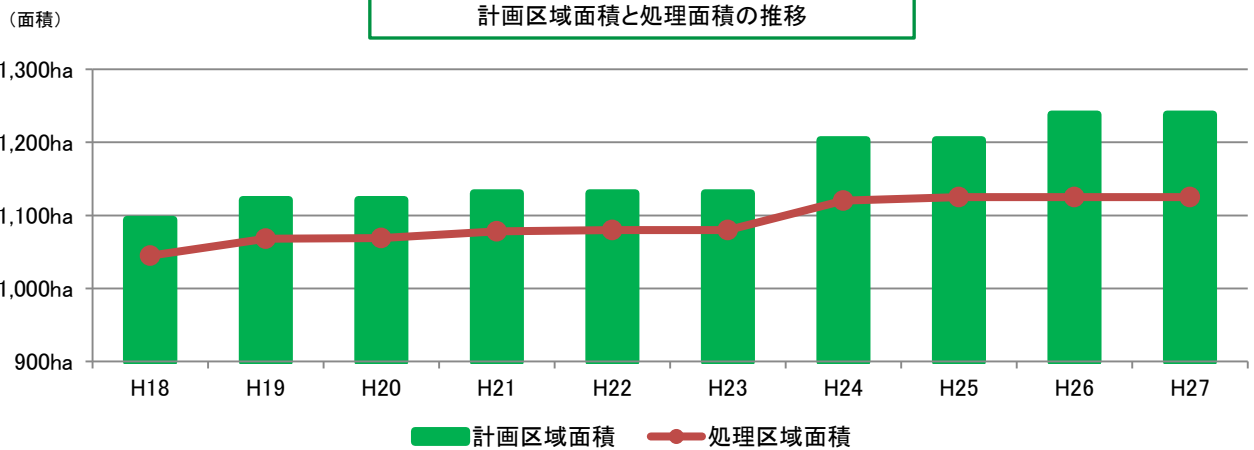
## 不納欠損

	居所不明	徴収不能	法人の倒産・破産	本人死亡	合計
人数	10人	3人	0人	4人	17人
件数	30件	15件	0件	8件	53件
金額	99,258円	112,469円	0円	23,792円	235,519円

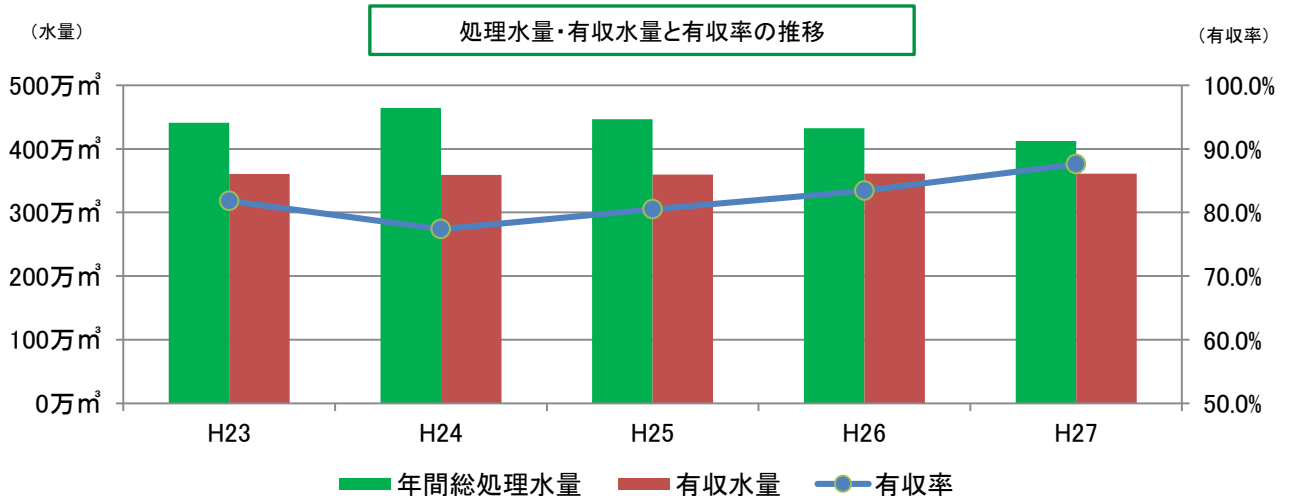
# 1 業務の概要

## 下水道事業

平成27年度末の公共下水道と農業集落排水を合わせた処理面積は 1,125ha でした。  
平成27年度の年間総処理水量は約410万 $\text{m}^3$ 、うち有収水量は約361万 $\text{m}^3$ でした。  
汚水処理の効率性を示す有収率は87.6%と、対前年度4.2ポイントの増となりました。



- 計画区域面積とは、下水道による排水処理を予定している区域の面積のことです。
- 処理区域面積とは、実際に下水道による排水処理が可能な面積のことです。



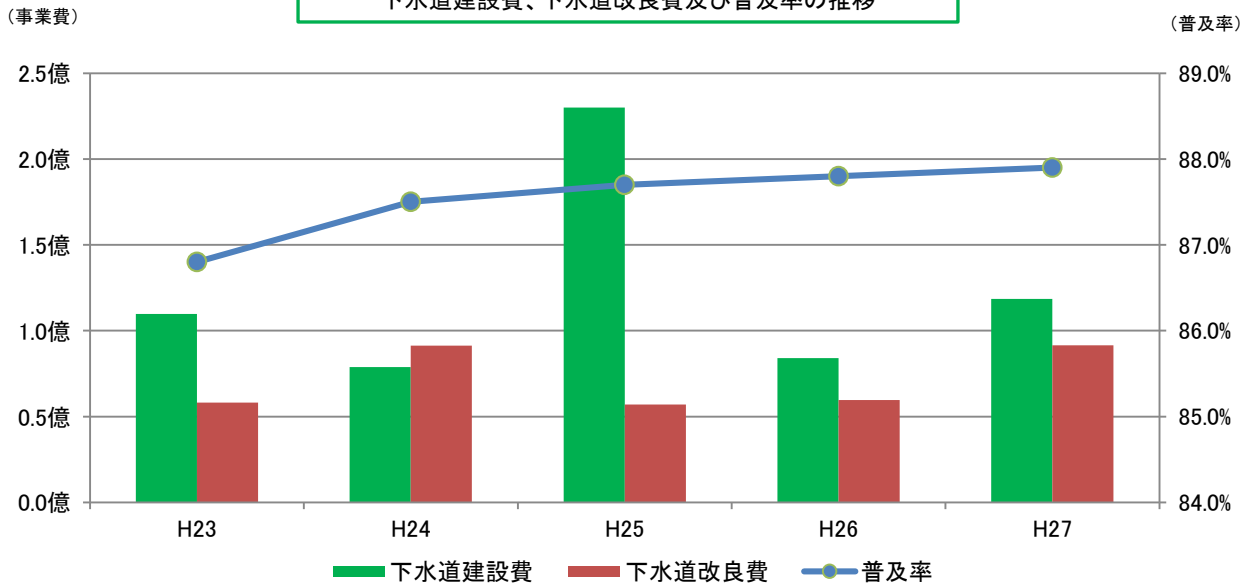
- 処理水量とは、汚水処理場に流入した水量のことです。
- 有収水量とは、使用料算定の対象となった水量のことです。
- 年間総処理水量は前年度から約20万 $\text{m}^3$ 減少していますが、有収水量が増加したことにより、有収率は4.2ポイント改善しています。

## 2 主要な建設事業

## 下水道事業

平成27年度の下水道建設費は1億1,800万円で、対前年度3,400万円の増となりました。  
下水道改良費は9,100万円で、対前年度3,200万円の増となりました。

下水道建設費、下水道改良費及び普及率の推移



### 下水道建設費

下水道建設費では、処理区域の拡大に伴う下水道管の布設を中心に、処理施設の新設などを行っています。

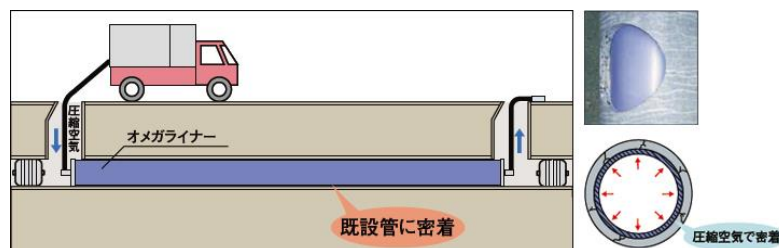
平成25年度に着手した公共下水道事業と駒場の農業集落排水事業の接続事業は、平成28年10月の完成を目指し事業を進めています。

### 下水道改良費

下水道改良費では、老朽管の更生事業など、既存施設の更新を行っています。

平成27年度は、緑陽台地区の污水管更生工事などを実施し、老朽施設の計画的な更新を進めています。

《污水管更生に用いるオメガライナー工法》





# 3 決算の状況

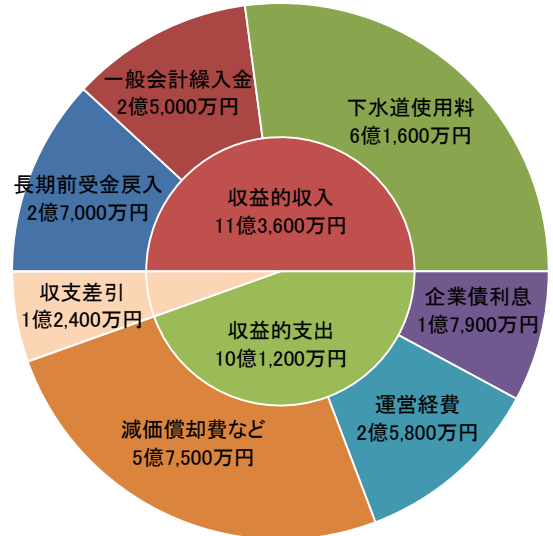
## 下水道事業

平成27年度の使用料収入は6億1,600万円で、対前年度300万円の増となりました。  
平成27年度の純利益は1億1,300万円で、対前年度400万円の増となりました。

### 収益的収支

- 事業運営の結果、収入額11億3,600万円に対し、支出額は10億1,200万円となりました。
- 使用料収入は6億1,600万円となり、総収入のうち約5割を占めています。そのほか、一般会計から負担金及び補助金として2億5,000万円を繰り入れています。
- 収入額は対前年度1,400万円の減となりましたが、その主な理由は、一般会計からの繰入金の減によるものです。
- この結果、収益的収支の差引は1億2,400万円で、消費税調整後の純利益は1億1,300万円となりました。

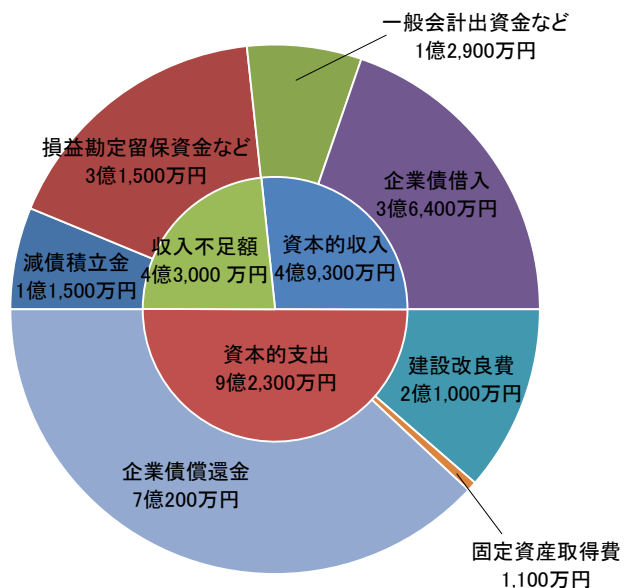
収益的収支の内訳



### 資本的収支

- 建設改良費は、下水道建設費などの増により、対前年度6,600万円の増となりました。
- 企業債償還金は、平成25年度借入分の償還開始などにより、対前年度900万円の増となりました。
- 資本的収入における収入不足額4億3,000万円については、減債積立金や損益勘定留保資金など、収益的収支から発生した財源で補っています。

資本的収支の内訳



# 4 損益の状況

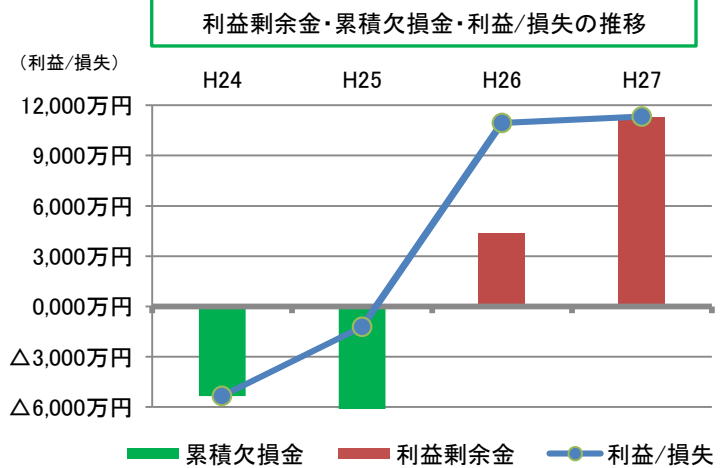
## 下水道事業

平成27年度の純利益は1億1,300万円で、対前年度400万円の増となりました。  
純利益は全て「減債積立金」に積み立て、企業債の償還財源とします。

下水道事業は、平成24年度に町の特別会計から、水道事業と同じ地方公営企業会計に移行しました。

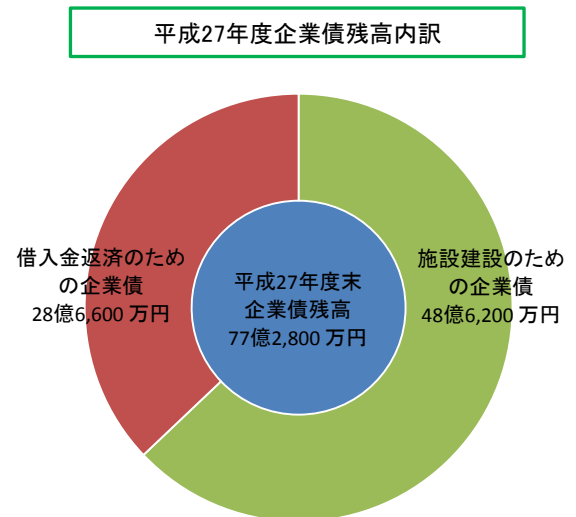
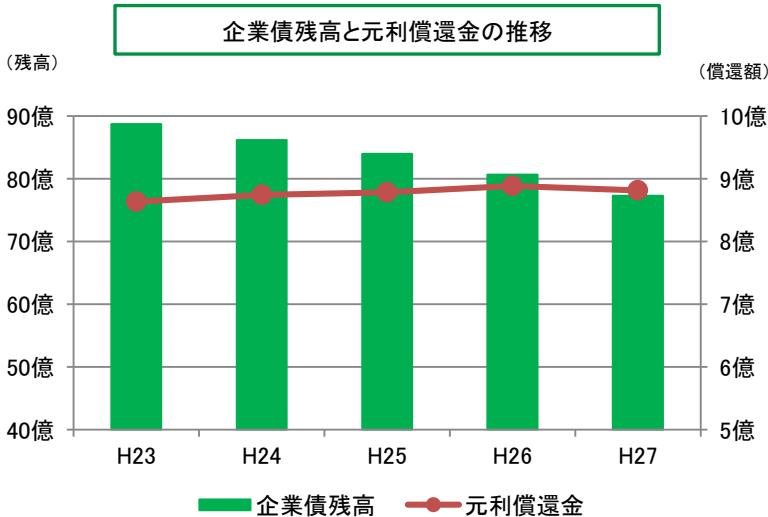
最初の2年間は欠損金(赤字)が発生していたため、約6,500万円の欠損金が累積していましたが、平成26年度の決算において利益を計上し、同時に累積欠損金を解消することができました。

平成26年度から純利益を計上していますが、資本的収支における収入不足を補うため、ほぼ全てを当年度の企業債の償還に充てています。



# 5 企業債残高と元利償還金の推移 下水道事業

平成27年度の企業債残高は77億2,800万円で、対前年度3億3,900万円の減となりました。  
平成27年度の元利償還金は8億8,100万円で、対前年度700万円の減となりました。



平成27年度末の企業債残高は、対前年度3億3,800万円減の77億2,800万円となり、そのうち資本費平準化債などの借入金を返済するための企業債が28億6,600万円を占めています。  
資本費平準化債は平成17年から発行が認められた制度で、比較的短期間で償還が終了するため、企業債残高は、この10年間でほぼ7割程度まで圧縮される見込みです。

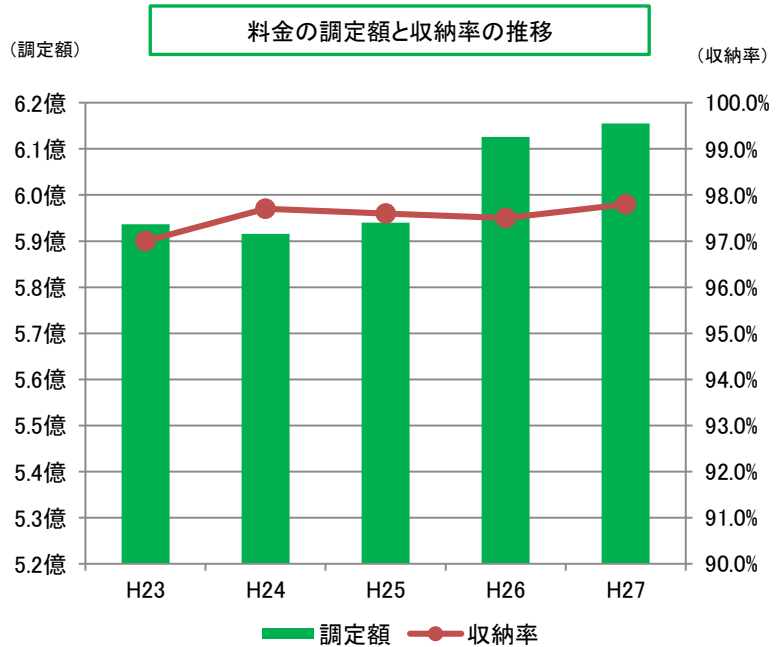
# 6 使用料収納状況

## 下水道事業

平成27年度の下水道使用料調定額は6億1,600万円で、対前年度300万円の増となりました。  
平成27年度調定分の収納率は97.8%で、対前年度0.3ポイントの増となりました。

下水道使用料(公共下水道使用料及び農業集落排水使用料)の平成27年度調定額は6億1,600万円、収納額は6億300万円となりました。

平成27年度現年度調定分及び過年度調定分の合計の収納率は97.8%で、現年度分のみの収納率は98.0%となっています。



### 下水道の使用水量は どうやって計っているの？

下水道法で「条例で定めるところにより、公共下水道を使用する者から使用料を徴収する。」と定められていることから、本町の公共下水道条例で次のように規定しています。

《 公共下水道条例 第15条第2項第1号 》

水道水を使用する場合は、給水条例第23条の規定により当該月に使用したものと決定された水道の使用水量とする。

様々な利用状況により、算定水量の誤差は生じますが、一般に使用された水はほぼ下水道に排出されている上、すべての下水道に正確な計量メーターを設置した場合の経費増加により使用料が高くなってしまう可能性を考慮すると、この方法には合理性があるものとされています。